

「朝の読書」25周年記念アンケート結果

(株)トーハン 広報室

実施期間:平成25年10月1日～11月30日

アンケート回答数:755件

Q1.回答者年齢構成 (n=755)

10代	56
20代	119
30代	156
40代	206
50代	175
60代	19
70代	4
不明	20

Q2.回答者男女構成 (n=755)

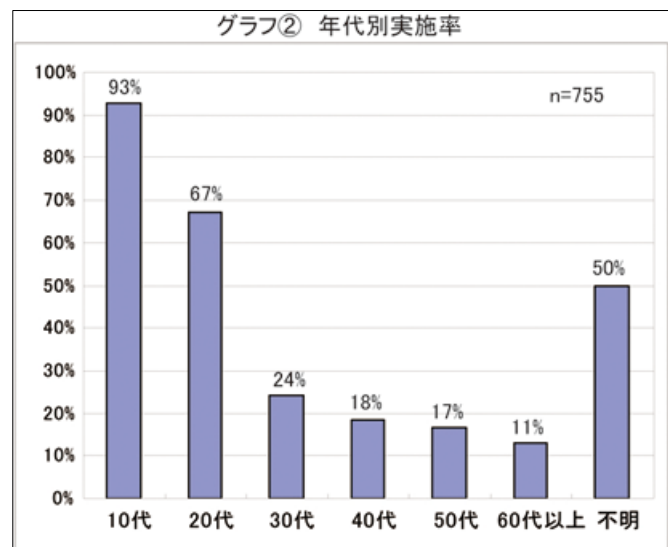
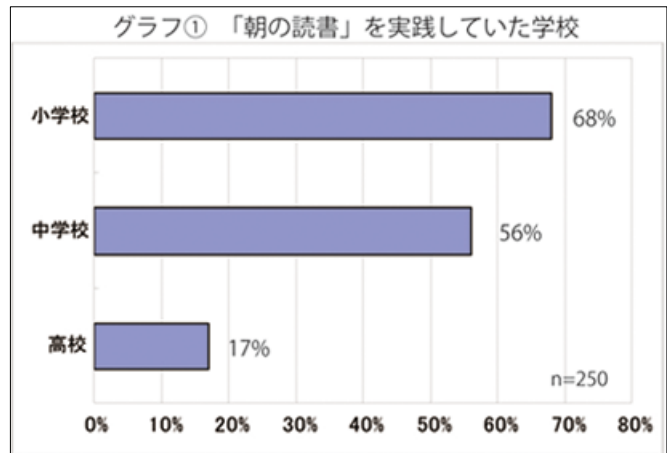
男性	272	36%
女性	483	64%

Q3.学校での「朝の読書」実施状況

はい	250	33%
いいえ	505	67%

Q4.「朝の読書」を実施していた学校(複数回答) (n=250)

小学校	169	68%
中学校	139	56%
高校	42	17%



Q5.「朝の読書」で思い出に残っている本

※複数回答のあった上位作品および著者

【作品別】

赤毛のアン
 かいけつゾロリシリーズ
 怪盗ルパンシリーズ
 ぐりとぐら
 こまったさん・わかったさんシリーズ
 シートン動物紀
 シャーロック・ホームズシリーズ
 十五少年漂流記
 少年探偵団シリーズ
 ズッコケ三人組シリーズ
 Itと呼ばれた子
 大草原の小さな家
 ダレン・シャン
 図書館戦争
 はだしのゲン
 バッテリー
 ハリー・ポッター
 ぼくらシリーズ
 星の王子さま
 モモ

(50音順)

【著者別】

芥川龍之介
 有川 浩
 コナン・ドイル
 J・K・ローリング
 ダレン・シャン
 中沢啓治
 夏目漱石
 原 ゆたか
 ミハエル・エンデ
 モンゴメリ

あさのあつこ
 江戸川乱歩
 シートン
 宗田 理
 寺村輝夫
 那須正幹
 はやみねかおる
 星 新一
 宮澤賢治
 ワイルダー

(50音順)

Q6.学校時代の読書の思い出

- ・部活の朝練が終わってから教室に急いで向かい、本を開いた。朝の読書で心が落ち着き、授業に入れた。
- ・朝の読書の充実感は、とても爽快だった。シーンとした教室にページを捲る音が鳴り響いていた。
- ・朝の読書と教室、図書館の雰囲気をセットで思い出す。
- ・無理やりの読書でも、だんだんと本の面白さがわかり自分と合う本を知る喜びを知った。
- ・友だちと読んだ本を交換したり、本の話題で盛り上がった。選んだ本でその人の人柄や思想が現れる気がした。
- ・思い思い好きなジャンルの本を持ち寄り、短い時間で感銘、没頭、否定、悩み、同感等々、様々な思いに出会えた。
- ・10分間という短い時間でも毎日続けることでたくさんの本を読むことができ、友達と本の話で盛り上がることもあった。
- ・続きが読みたくて、夜更かししたり、本の交換をして意見したり、楽しい思い出になっている。
- ・読書後、先生が突然、感想を1人ずつ発表するといい、ドキドキして考えて、大変ほめられた。
- ・自然と読書習慣が身につく、とても素晴らしい取り組みだったと思う。
- ・みんなで読むことに初めは慣れなかったが、だんだん集中して読めるようになった。
- ・学級文庫が多く読書指導に力を入れておられる先生に担任をして頂き、読む環境があったことがとても嬉しかった。
- ・部活に追われていた中、朝の読書は唯一取れる読書の時間で、それがあったからこそ、大人になって再び読書熱があつくなったと思う。
- ・20歳以前に読んだ本はストーリーは忘れても、非常に記憶に残っており、大人になってから愛読していた児童書を買集めた。

『朝の読書』は1988年に千葉県私立女子高校で二人の教師によって提唱され、1994年よりトーハンが支援する形で全国に広がった読書推進運動で今年25周年を迎えました。「みんなでやる、毎日やる、好きな本でよい、ただ読むだけ」というシンプルな4原則が学校現場に受け入れられ、読書推進にとどまらず「いじめや争いが減った」「落ち着いて授業に入れる」など様々な効果をもたらしています。